

富津市社会教育委員会議会議録

1 会議の名称	平成28年度第2回富津市社会教育委員会議
2 開催日時	平成29年3月10日 午前9時30分～午前11時23分
3 開催場所	富津市役所401会議室
4 審議等事項	報告 (1) 第51回千葉県社会教育推進大会について (2) 第58回全国社会教育研究大会千葉大会について (3) 平成28年度君津地方社会教育委員連絡協議会研修会について (4) 富津市民文化祭2016について (5) 平成29年成人式について (6) 平成28年度富津市社会教育事業について 議題 (1) 平成28年度富津市社会教育委員の活動について (2) 平成29年度富津市社会教育委員会議に向けて
5 出席者名	(委員) 石井喜美子、宮内和男、川名健一、石井聡、三富和彦、杉田玲子、森千枝子、磯貝順子 (事務局) 岡根教育長、能城教育部長、山口生涯学習課長、鈴木公民館長、伊藤社会教育係長、平野主事、川名社会教育指導員
6 公開又は 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の 理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	0 人 (定員 5人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 社会教育係 電話 80-1345
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

第 2 回 富津市社会教育委員会議会議録

発言者	発言内容
(事務局) 山口課長	<p>定刻となりましたので、始めさせていただきます。本日は何かとお忙しい中ご出席を頂き、誠にありがとうございます。本日の進行を生涯学習課長の山口が務めさせてさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>会議に先立ち、出欠席の報告をさせていただきます。本日の出席委員は 8 名、欠席委員は 5 名でございます。したがって、2 分の 1 以上の出席がございますので、社会教育委員会議運営規則第 3 条第 5 項の規定により、会議は成立いたします。</p> <p>ここで、会議の公開について、説明させていただきます。本会議は、富津市情報公開条例第 2 3 条第 1 項の規定により公開となります。このため、後ほど会議録署名人 2 名を決めていただきたいと思います。また、会議録作成のため録音をさせていただきますので、ご了承願います。</p> <p>それでは、ただ今から平成 2 8 年度第 2 回社会教育委員会議を始めさせていただきます。はじめに、三富委員長からご挨拶をお願いいたします。</p>
三富委員長	<p>みなさんおはようございます。年度末の多用の折、また朝早くの会議にお集まりいただきありがとうございます。この 3 月で平成 2 7 ・ 2 8 年の 2 年の任期が終了となります。来年度に向けましてもご協力のほどお願いいたします。</p> <p>明日 1 1 日は東日本大震災から 6 年を迎えることとなります。当時、私は大貫中学校長 1 年目でございます。大きな被害に驚いたと記憶しています。一校長として判断するために、同 8 月にどうして石巻の大川小学校の 7 4 名の子どもたちと職員という尊い命を犠牲にしなければならなかったのかと思い、支援物資を車に詰め込み 1 泊 2 日で現場を見に行ってきました。</p>

た。その中でトップとしての責任は非常に厳しいものがあり、判断を誤れば、多くの方に迷惑をかけ、場合によっては犠牲をも出してしまうとうことを痛感してきました。

社会教育については、全国社会教育研究大会が千葉県で行われ、防災対策に社会教育はどのようにかかわることができるのかということも考える機会がありました。君津地方の社会教育推進大会でも宮城県の方を講師に迎え、防災に関する話を伺ったところでもございます。社会教育委員が担う役割は多岐にわたるわけですが、研修等で知識を積み、富津市の社会教育行政のために活動できればと考えております。

(事務局)
山口課長

ありがとうございました。続きまして岡根教育長からご挨拶を申し上げます。

岡根教育長

みなさんおはようございます。三富委員長から東日本大震災の話がありましたが、私は当時県の学校安全保健課の課長をやっておりました、そのあと様々な対応を行ったことを思い出しました。

市の全体計画が平成27年度末で終了している状況のなか、教育委員会としては、市長と教育委員会が話し合ったうえで、お手元にある「教育施策」というものを作りました。まだ荒削りの内容ですが、これに沿ってやっていきたいと考えています。社会教育の分野について、変更点や意見等がありましたらおっしゃっていただければと思います。

あるニュースの話ですが、ITの担当者がこの30年でIT事情がここまで変わるとは思っていなかったと話していました。ITの担当者ですら予想できない変化とともに日本は少子高齢化・人口減少となっています。学校教育では、小学校においてプログラミング教育を始めていますが、富津市ではまだ実施していません。どのような方向に舵を取っていくべきか学校

	<p>教育も右往左往しているところです。</p> <p>地域に目を移すと、子どもの数の減少により、明治以来あるいは戦後以来の学校組織を再配置していくという課題があります。富津地区はまだですが、他の地区では複式学級が多くなっています。今まで経験したことの無いような改革をしなければいけないのではないかと感じています。保護者の理解を得ながら進めていくことが使命だと思い取り組んでいきます。</p> <p>本日は会議の内容が多く見込まれていますが、忌憚のない意見をいただければと思います。</p>
<p>(事務局) 山口課長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>これより議事の進行につきましては、社会教育委員会議運営規則第3条第4項の規定により、三富委員長により進めて頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>よろしくお願いいたします。それではまず、会議次第3「議事録署名人の指名」についてであります。私から指名することで、よろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし。</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>ご異議もないようですので、宮内和男委員と石井喜美子委員でよろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし。</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>ご異議もないようですので、石井喜美子委員と宮内和男委員に決定いたします。</p> <p>それでは、報告に入ります。各事業に参加した委員の皆さんから参加報告をお願いいたします。はじめに、報告(1)第5</p>

磯貝委員	<p>1回君津地方社会教育推進大会について、磯貝順子委員から報告願います。</p> <p>それでは、私から第51回君津地方社会教育推進大会についてご報告申し上げます。昨年の7月9日(土)、第51回君津地方社会教育推進大会が、君津市民文化ホールにて開催されました。</p> <p>富津市社会教育委員は、三富委員長をはじめ10名の委員が参加し、さらに社会教育指導員・家庭教育指導員及び生涯学習課職員・中央公民館職員の6名が参加しました。</p> <p>表彰状の贈呈では、富津市からは、個人の部で富津市公民館運営審議会委員長の宮崎和子氏、委員の手塚清美氏の2名が社会教育振興への功績が認められ表彰されました。</p> <p>また、本大会を共催している新日本製鐵株式会社君津製鐵所が、社会貢献賞として制定するクローバー賞の表彰が6団体に対して行われ、富津市からは、地域文化の継承と住民交流を目的とする「二間塚交友会」と、佐貫地区小中学校で本の読み聞かせを行う「図書ボランティアおはなしパレット」が受賞しました。</p> <p>式典終了後の記念講演では、NPO法人イコールネット仙台代表理事の宗片恵美子氏を講師に招き、「やさしく強い地域づくりとは～東日本大震災から学ぶ社会教育の可能性～」と題した講演が行われました。</p> <p>震災前からNPOで人が支えあう社会づくり、男女共同参画社会づくりに尽力された宗片さんは、災害時における女性のニーズ調査で浮き彫りになった不安が、大震災時に現実のものとなる経験をされました。災害時には、避難所の支援活動を続けながら、過酷な状況の中で苦しい立場に置かれてしまう人々の姿を目の当たりにし、一人ひとりが大切にされる地域づくりをめざし、「自分の地域を守るのは自分たち」を合言葉に、地域防</p>
------	---

	<p>災リーダー育成や避難所運営ワークショップを開催するなどの活動は、防災関係者をはじめ多くの方々に聴いてもらいたかった大変有意義なお話でした。</p> <p>地域の課題解決に向け、あるいは地域づくりそのものに向け、働きかけていくことが、社会教育のあり方であると感じました。</p> <p>記念講演終了後、大会決議文が参加者全員賛成のもとに採択され、閉会となりました。</p> <p>今年度は、君津市社会教育委員が中心に大会を開催し、334名の参加者で、盛大に開催されました。富津市からは65名の参加でした。</p> <p>平成29年度も、君津市が開催市となりますので、ご協力をお願いいたします。以上で第51回君津地方社会教育推進大会についての報告を終わります。</p> <p>(議長) 三富委員長 磯貝委員からの報告は終わりました。委員の皆さんから、ご質問等ございますか。</p> <p>委員 特になし。</p> <p>(議長) 三富委員長 ご質問等はないようですので、次の報告(2)第58回全国社会教育研究大会千葉大会について、杉田副委員長から報告願います。</p> <p>杉田 副委員長 それでは、第58回全国社会教育研究大会千葉大会について、ご報告申し上げます。今回の全国大会は、千葉を会場として、第47回関東甲信越静社会教育研究大会・第51回千葉県社会教育振興大会を兼ねて、10月26日から28日の3日間にかけて開催されました。</p> <p>26日は関係者のみで理事会・事務局会議が行われ、私たちは27日の全体会、28日の分科会に参加しました。</p>
--	--

27日に千葉県文化会館大ホールにおいて行われた全体会には、社会教育委員から、実行委員をされた三富委員長のほか、宮内委員、石井聡委員、大野委員、森委員、磯貝委員と私の7名。小泉君津連協顧問のほか、社会教育指導員の市川先生、川名先生、事務局から山口課長、平野主事と、実行委員の伊藤係長、総勢13名が参加しました。

オープニングのアトラクションは、全日本吹奏楽コンクールの金賞常連校、市立柏高等学校吹奏楽部の演奏で、総勢180名による客席まで使用した躍動感溢れる演奏は、オープニングにふさわしいさわやかな感動をもたらしました。

会場を包む余韻の中行われた開会行事の後の基調講演では、株式会社オリエンタルランド執行役員・人事本部長の金木有一氏に、「社会に役立つ人づくり」と題してお話しいただきました。人材育成を実践してきたなかで培われた考えやエピソードなど、まちづくり・人づくりにつながるお話でした。金木氏は自己紹介の中で富津市大貫の出身で、前日にメールをもらったという中学時代の恩師が社会教育指導員の川名先生であることを後で知りました。

次のシンポジウムは、「地域コミュニティ再生に向けて～人づくり・まちづくりをどのようにしていくか～」をテーマに、コーディネーターとして、千葉敬愛短期大学学長・千葉大学名誉教授の明石要一氏を、シンポジストとして、まちの宝創造アドバイザーの岸川政之氏、シンクタンク未来教育ビジョン代表の鈴木敏恵氏、放課後NPOアフタースクール代表理事の平岩国泰氏の3名を登壇者として行われ、「地域みんなで子どもを育てる実践者」の語り合いに、社会教育の可能性を改めて感じました。

28日にTKPガーデンシティ千葉で行われた分科会には、三富委員長、川名委員、石井聡委員、磯貝委員、と私の5名の委員と、小泉君津連協顧問のほか、事務局から伊藤係長と平野

<p>(議長) 三富委員長</p> <p>委員</p> <p>(議長) 三富委員長</p> <p>石井聡委員</p>	<p>主事の、計8名が参加しました。</p> <p>分科会は「学校教育支援の推進」、「家庭教育支援の充実」、「地域の教育力の向上」、「社会教育委員の役割」、「災害に強い地域づくり」の5つのテーマに分かれて実施しました。この分科会は当君津地方4市が担当で、それぞれの会場での事例発表のあと、5、6人ずつという少人数に別れたグループで「語り合い」をするというスタイルは、2年にわたって4市の研修等で検討を重ねた末に設定されたものです。</p> <p>私は第3分科会の「地域の教育力の向上」に参加しました。公共施設に関する貴重な意見を多く聞くことができ大変勉強になりました。</p> <p>大会全体の評価を「よかった・大変よかった」とした人が約8割と高い評価を得たのに加え、分科会に限ると9割近くの方に満足いただいたというアンケート結果でした。</p> <p>以上で、全国社会教育研究大会千葉大会の報告を終わります。</p> <p>杉田副委員長からの報告は終わりました。委員の皆さんから、ご質問等ございますか。</p> <p>特になし。</p> <p>ご質問等はないようですので、次の報告(3)君津地方社会教育委員連絡協議会研修会について、石井聡委員から報告をお願いします。</p> <p>それでは、(3)君津地方社会教育委員連絡協議会研修会について、ご報告申し上げます。</p> <p>全国大会分科会の準備を兼ね、2年連続で事例報告と討論の研修会だったため、移動研修の要望に応え、当番市である富津市が企画して、2月14日(火)に、実施しました。</p>
--	--

研修会の参加者は総勢21名で、富津市からは、三富委員長、川名委員、磯貝委員と私及び事務局の伊藤係長の5名が参加しました。

昨年4月に「北総四都市江戸紀行」として、千葉県で初の日本遺産に認定された佐倉・成田・佐原・銚子のうち、「佐倉市の城下町・成田市の門前町で江戸を感じる街並みを見ながら、地域の文化財を活用し、地域の活性化につなげている姿を感じる」という趣向で実施されました。

富津市の新しい生涯学習バスで4市の市役所を回り参加者が揃うと、車中でまず、日本遺産についての説明があり、県では平成29年度、さらに房総の「海の幸」をテーマに、沿岸部ほぼ全域にわたるエリアでの申請を予定しており、君津地方も含まれるため、認定のためあるいは認定後に地域でどのような活動をしているのかを知りたかったという研修先選定の概要が説明されました。

四街道インターを降り中世の本佐倉城、近世の佐倉城の話を聴きながら、鹿島川沿いの道に入ると、川と反対側の外堀越しに崖に囲まれた高台があり、そこが佐倉城でした。城壁を必要としない千葉県では典型的な天然の要塞を目の当たりにしながら城下町を抜け、大手門付近の佐倉市立体育館へ向かいました。

駐車場で待つ、NPO法人「まちづくり支援ネットワーク佐倉」の代表福山重雄氏のご案内で、市道を下って小道に入り、江戸時代そのままの「袋小路」から「くらやみ坂」を上って鍮木小路へ。格の違う3軒の武家屋敷を見ながら、武家屋敷をはじめとする遺産の調査・復元・保存・活用等についてのお話をうかがい、このような市民の地道な活動の積み重ねが、文化遺産を支えていることを実感しました。

成田へ向かう車中では、成田山の沿革から門前町の形成過程の解説に次いで、商店街の変遷とシャッター街化、そこからの脱出を図った住民主体のまちづくりについて、さらに地区ごと

の整備方法の違いや、見所など、午後の表参道散策に備えた話を聴きながら、土木遺産・電車のトンネルを抜け、昼食会場へ行きました。食後は日本遺産の特別展をしている米屋の羊羹博物館などに寄り、江戸の風情を残し、復元しながら新たなまちづくりに挑んだ商店街の街並みを楽しみました。

余談ではありますが、朝、全員が揃った車中で、富津市の新しい生涯学習バスの初めての本格運行であることについて触れられて、「長時間の乗車に果たしてオトナが耐えられるかという人体実験を兼ねている」旨のアナウンスがありましたが、身体の不調を訴える者もなく、非常に良い評価でした。バスの外装のふつつんの絵柄と富津岬のデザインが好評でした。以上で4市移動研修の報告を終わります。

(議長)
三富委員長

他3市の委員からもバスのデザインやガイドについては良い評価を頂きました。石井聡委員からの報告は終わりました。委員の皆さんから、ご質問等ございますか。

委員

特になし。

(議長)
三富委員長

ご質問等はないようですので、次の報告に移ります。(4) 富津市民文化祭2016についてと、(5) 平成29年成人式については、それぞれ公民館事業となるため、鈴木公民館長から続けて報告をお願いします。

(事務局)
鈴木館長

それでは、報告(4) 富津市民文化祭2016についてから、ご報告申し上げます。

富津市民文化祭2016は、11月3日(木)から11月6日(日)までの4日間、富津公民館・中央公民館・市民会館・総合社会体育館の4会場で開催されました。

ポスターにつきましては、市内小中学校から99点の応募が

あり、その中から佐貫中学校2年山中慧さんの作品が優秀作品としてポスターに採用されました。

また、メインテーマは、市内中学校および一般から382点の応募があり、その中から優秀作品として、大貫中学校2年松浦直輝さんの「集まろう育てて楽しむ文化祭」が採用されました。

文化祭全体の出演・出展者数は3,660人、展示部門作品数は2,876点、芸能部門・催し部門の曲数は216曲、子どもまつり部門の種目55種目で、日ごろの活動成果による作品または芸能発表等が活発に行われました。

全体の出演・出展者数が昨年より70人増えた一方で、展示数が238点減少しております。総合社会体育館での出展者数が788人と昨年度から223人減少し、展示作品数が970点と207点減ったことが影響しております。

参観者数は全体で18,114人で、昨年度より645人増加しております。

109件の回答があった総合社会体育館でのアンケートによりますと、市内の方が80%、市外が20%で、展示については98%の方が「大変よかった」あるいは「よかった」と答えております。

「子どもから高齢の方まで作品を通して楽しんでいる様子がかがえました。」「展示されている作品にとっても感動しました。私も何かはじめてみたいと思いました。」等々、展示に対する高い評価が目立ちましたが、やはり作品数の減少の指摘や、継続を求める声も多くみられました。

富津公民館・中央公民館・市民会館を加えた数字では、「大変よかった」あるいは「よかった」と答えた方が99%に上っております。意見・感想としては、たとえば富津公民館の来館者から、「出来たらカラオケ大会等も企画してほしい。」とか「音楽の集いの鑑賞者を増やして、生徒を盛り上げてやりたい。」と

いう積極的なご意見がある一方で、出展者から「社会体育館と公民館、どちらかに統一しては如何か？」という意見が出たりしています。また、期間については、(特に生花の展示などで、)5日間では長いということで、今年度は4日間にしましたが、それでも長いという意見が結構ありました。館毎に期間をずらして開催するなど、実施の仕方の検討が必要な時期かもしれません。

以上で、富津市民文化祭2016についての報告を終わります。

続きまして、報告(5)平成29年成人式について報告いたします。

平成29年成人式は、1月8日(日)午後2時から富津公民館において開催されました。当日は、社会教育委員の皆様にも、新成人の門出をお祝いしていただき誠にありがとうございました。

該当者は平成8年4月2日から平成9年4月1日までに生まれた市内居住者及び市外転出者483名で出席者351名、出席率は72.7%でありました。

今年度は社会教育指導員・家庭教育指導員と館長及び富津公民館職員、新成人の代表者による事前打合せで内容の見直しが検討され、これまで中学校の校歌が流れていた開式前には思い出のスライドショーを上映し、中学生代表による「新成人に贈ることば」は「参加者全員による合唱」に変更されました。また、これまで5つの中学校区からそれぞれ選ばれていた「成人としての意見発表」の発表者を、司会者・ピアノ伴奏者の出身地区を除く地区の3名に絞って簡潔にするなどの工夫が凝らされ、彼ら新成人代表によってスライドショーの内容と、合唱曲が選定されました。

こうして例年にないほど厳粛な中にも温かみのある式典は、午後3時に終了し、その後記念撮影が行われました。

	<p>以上で、平成29年成人式についての報告を終わります。</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>鈴木公民館長からの報告は終わりました。委員の皆さんから、ご質問等ございますか。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>今までやってきたことをそのままやるのではなく、新成人も交えながら内容を工夫したのは大変素晴らしいと思いました。</p>
<p>磯貝委員</p>	<p>文化祭に参加させていただいて感じることもありますが、今、市の状況も変化していて、市民などからいろいろな意見も出ている中で、従来のやり方を考える時期に来ているような状況にあると思います。そのような中で、今年の成人式は市も変わる努力をされているんだということのひとつの表れのように感じました。</p>
<p>(事務局) 鈴木館長</p>	<p>実は、今回の成人式でやり方を変えたのは、岡根教育長の発案がきっかけで、我々事務局で検討させていただきました。</p>
<p>宮内委員</p>	<p>打合せのなるべく早い段階から新成人に参加してもらって、主役である新成人が主体となった成人式になっていくと良いと思います。</p>
<p>(事務局) 鈴木館長</p>	<p>今後は早い段階から実行委員のような形で新成人に参加してもらって進めていくことを検討するよう引継ぎたいと思います。</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>次の報告(6)平成28年度富津市社会教育事業について事務局から報告願います。</p>
<p>(事務局) 伊藤係長</p>	<p>それでは、富津市も変わる努力をしているということで、来年度に変わることも含めてご説明いたします。</p>

社会教育事業を進める上で最も重要なのが、この1番の社会教育委員会議ですが、後ほど議題の方でお話いたします。

2番の青少年問題協議会は昭和46年から設置されていますが、子どもたちが荒れていた時代も過ぎ、今では年1回の開催です。関係団体が一堂に会して情報を共有するという意義はあるのですが、毎年同じ内容の発表をする団体もいくつかあり、何年も委員を経験された方などから、開催する意義を問われています。県内では3割ほどの自治体で廃止になっていて、地区住民会議等の上位にある市民会議がその役割を担っていることも多くなっています。来年度中に方針を決定することになっています。

次に、現在公民館・市民会館の3館に配置されている3・4番の指導員の先生方ですが、「子育て日本一を目指す」新市長の公約で「子育ての話何でも聴きます窓口」が開設する関係で、家庭教育指導員が本庁勤務となるのに伴って、新年度から社会教育指導員が1名増の3名となります。専門職のみならず職員数自体が削減される中、一層のご活躍が期待されるところです。

5番から生涯学習推進計画、家庭教育・青少年健全育成関係と、新たな展開を要する項目が続きます。

9番の図書活動の充実。これも皆様にご検討いただいているひとつですが、公民館・市民会館の図書室や移動図書館といった今ある施設のネットワーク化などの充実を図ることはもちろん、図書館がないということで今までできずにいたブックスタートも、みんなで子育てを支援していくんだという見方で事業を捉えなおすことで、来年度から実施できることになりました。それに向けてすでに1月からボランティア講習会を始めていて、この3月2日に実際の4か月児健診で実習を行ったところです。

10の学級・講座の開設の1番、家庭教育支援事業は、家庭教育学級を開設する学校に講師への報償費を支給する事業で、

今年度も6校の開設がありました。平成以前から行っている事業ですが、例年全体の3分の1程度の開設で、すべての学校ではないということや、所期の目的は達せられたという理由で、今年度限りということになりました。今後は、本庁勤務となる家庭教育指導員とともに新たな取り組みを、というところです。

11・12の視聴覚教材関係についても、デジタル教材が主流になり、コンピューターやインターネットの発達が拍車をかけ、かつてその中心だった16ミリ映写機も、もはや文化財の域に入りつつあります。広域市町村圏の視聴覚教材センターは、かつては市単独ではなかなか持つことのできなかつた高価な機材や教材を揃えて、それを活用することができるありがたいシステムでしたが、近年利用が激減しており、存続の可否が問われています。

その他、先ほどご報告のありましたように今年度は全国大会でしたが、千葉県や君津地方の大会、県や南房総地区の研修への参加も促しながら、公民館ともより密接に連携を取りながら、地域を活性化させていきたいと思います。

続いて文化事業については、発掘調査等例年通りの事業が行われる中、指定文化財として、吾妻神社の馬だし祭りが、これまで用具やオブリ神事という祭りを構成する一部が県や市の指定になっていたものが、馬だし、神輿などを含めた祭礼全体が県の指定になりました。市の文化財審議会としても十数年来の願いがかなったかたちです。2020年に向けての日本遺産の認定の動きにも見られるように、個別のものから群としての、よりストーリー性のある指定のあり方になってきているようです。

当市には南関東最大の内裏塚古墳をはじめとする文化財が多数あります。今年度は内裏塚古墳の周溝の一部を購入しました。本来でしたら早急に整備計画を立てて取り組んで行くべきところですが、それらを市の資源として、観光資源として活かせる

ように、普及事業に力を入れながら、私も微力ながら得意の伐採や草刈などで貢献してまいる所存です。

最後にスポーツ振興事業としては、様々な行事がある中で、市が主催・共催する事業の欄外に参加人数を記載しております。カッコ内の数字は昨年度比です。スポーツ行事は天候に左右されることも多いのですが、スポーツフェスタの参加者が400人（14.6%）ほど減っているのは、グラウンドゴルフがなくなった影響が大きいのかかもしれません。はじめてとも言えるほどの好天に恵まれた県民マラソンは、完走者数が3,295人と昨年から千人近く減っていますが、これは主催である千葉日報社の新しい担当者への引継ぎがうまくいっていなかったのか、始動が1か月ほど遅れてしまったのが主たる要因であったと考えられます。いつも大渋滞になる駐車場周辺も今年はスムーズで、運営自体は非常にうまく行ったという印象なので少々残念ではありますが、漁港では和太鼓の演奏で盛り立ててくれていましたし、やはりこうした市民の応援や参加を促していくことが、これはスポーツだけには限りませんが、それぞれの行事では大切なのだと思います。

以上で、社会教育事業についての報告と説明を終わります。

事務局からの報告は終わりました。委員の皆様からご質問等ございますか。

観光資源として整備するということがありましたがその時に考えていただきたいことがあります。以前、社会福祉協議会の関係で市内の公共トイレを調べたことがありますが、富津公園のトイレなど使用するのがはばかれるような状況で、財政的に無理なのかもしれませんが、整備や管理の面でどうにかならないのかと感じています。

(議長)

三富委員長

磯貝委員

杉田 副委員長	<p>何か整備したり造ったりして、それ自体いいことなのですが、それで終わってしまうということがよくあります。その後の管理も含めて予算化するということが必要だと思います。</p>
(事務局) 能城部長	<p>富津公園のトイレにつきましては、県の方で今年度改修工事が予算化されてすでに実施されていると思いますので、ご確認ください。また、市の管理となります下洲海水浴場のトイレにつきましては、2年ほど前に改修が済んでおります。</p>
(議長) 三富委員長	<p>県や市でも改修はしているということですね。ひどくなる前に最初からメンテナンスも含んで予算を立ててもらえれば、というところですね。</p>
	<p>では、先ほどの説明ではなかったことですが、資料の中の、天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業、というのに関係するかどうかわかりませんが、このところ報道されている殺処分について、もしわかるようでしたらご説明いただきたいのですが。</p>
山口課長	<p>ニホンザルが生息する富津市と君津市にまたがる高宕山一帯、当市では高溝・宇藤原などの地域の一部が国の天然記念物に指定になっておりますが、南房総の閉鎖した観光施設から逃げ出したと推測される特定外来生物「アカゲザル」が繁殖して生息域を広げ、ついに指定エリア周辺においても交雑個体の存在が確認されるようになったほか、豊岡の高宕山自然動物園のフェンスが老朽化で損傷しサルが出入りできる状態だったため、全頭（164頭）をDNA鑑定した結果、57頭が交雑個体だったことから、外来生物法に基づいて処分されたというものです。</p> <p>動物園は天然記念物の指定エリア外にある観光施設で、ニホ</p>

岡根教育長

ンザルに限って飼育してよいという許可が特別に下りているので、交雑個体を飼育してはいけない、ということがあって、駆除するほかなかったわけです。残り107頭の飼育を続けながら、新たに生まれる子ザルについてもDNA鑑定を行わなければならない。それなら外へ逃がしてやればよかったではないか、という新聞やネット上の投稿もありましたが、そもそも特定外来生物というのは、駆除対象となっていて、それをわざわざ逃がして、交雑を進める結果になってはいけないわけです。天然記念物の指定区域でどれだけ交雑が進んでいるのか、ということもこれから確認しながら対処していかなければなりません。

(議長)

ご説明ありがとうございました。他にご質問等はないようですので、次に、5の議題に入ります。

三富委員長

議題(1)平成28年度富津市社会教育委員の活動についてと、議題(2)平成29年度富津市社会教育委員会会議に向けては、関連することですから、事務局から続けて説明してください。

(事務局)

伊藤係長

これまでとこれからの活動をまとめてお話しいたします。富津市社会教育委員会会議は昨年度から、自主的な研修も入れながら活発に活動されてきたところですが、事業報告の冒頭にもありますように、今年度は推進計画部会と図書館部会を設けまして、それぞれ10月に1回、中央公民館に夜間お集まりいただき、2月の日曜日の午後には合同部会を開催するなど定例会以外にも活動して頂きました。

資料としましては、過去の図書館整備計画について確認・検討していただいた合同部会のまとめに加えて、すでに全委員に配布させていただいた各部会の記録も改めて添付しております。

推進計画部会や、年度当初の定例会でもご説明いたしました

とおり、教育委員会点検・評価の指標となっておりました第3次基本計画と生涯学習推進計画の目標期間が平成27年度までで、28年度以降の目標値等を定める必要があったために第3次基本計画をベースにして作られたのが、次の「富津市教育施策」であります。

第1部の学校教育の充実以外が生涯学習関係で、生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、スポーツ・レクリエーションの振興、文化・芸術活動の推進、文化財の保護と活用と続きます。

それぞれに目的、現状と課題があり、数値目標が示されますが、大切なのは事業として具体的に何をするかということです。

その次の「平成29年度生涯学習関係事業」という資料で、生涯学習推進計画の中での事業の位置づけをしています。市民憲章と富津市基本構想の下に富津市教育施策に係る大綱「豊かな心を育む教育と文化の香るまち」とあるのが、先ほどお話しした富津市教育施策にあたる部分です。その下に展開される基本施策の項目を単なるお題目に終わらせないために、推進方策にある内容をひとつでも多くより具体的な事業として示していけるようにするのが当座の目標です。

富津市教育施策には平成28年度～32年度とありますが、新しい生涯学習推進計画ができましたら、その内容に沿って改めるべきものです。今後も皆様のお力をお貸しいただきたいと思っております。

ここで、あらためて部会についてお話しいたします。ある課題について教育委員会から諮問を受けた場合など、そのことについてより深く検討するために、小委員会や作業部会などを設けて継続審議することが必要になります。

喫緊の課題として、新たな推進計画を策定することと富津市における図書館について検討すること、その2点が考えられたため、それぞれを集中して検討するために、2つの部会を設けようということになりました。本来なら定例会あ

るいは臨時会に諮って設置を決定するところですが、委員長・副委員長と事務局で決めさせていただきました。

そこで、改めて①特定の問題を扱う会合として、部会を設ける。ということについてお諮りしたいと思います。承認いただけましたら、②委員を複数の部会に分けるのではなく、その都度全委員にお知らせする。ということと、③活発な活動を可能にするため、部会の運営に必要なことがらは、部会で決定する。ということと併せて提案させていただきます。

以上でございます。

(議長)
三富委員長

事務局から、これまでの活動についてのまとめと、来年度の活動の方向が示されました。特に部会について決をとる前に、委員の皆さんから、ご意見を頂きたいと思います。

森委員

今年度は日程が合わなくて私はあまり参加できませんでした。お力になれるかどうかわかりませんが、どちらの部会でも予定がなければなるべく参加しようと考えています。

石井喜美子
委員

富津市に必要な図書施設や今後の推進計画について、社会教育委員会議で検討していくものであるとは思いますが、どのような方向で富津市の教育を、生涯学習を進めていくのかというところは、やはり市の、教育委員会の方針に基づくベースになるものがあって、その上で幅広く市民の意見などを伺いながら作っていく必要があると思います。

(議長)
三富委員長

事務局にはまず素案を作ってもらって、参加した委員がそれをたたき台に検討を加えていく、ということでご協力いただきたいと思います。

現状で部会を2つに分けているのに、各部会が開催されると

<p>川名委員</p>	<p>きは全委員に案内を出すということだが、それでは部会とは言えないのではないのでしょうか。</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>確か、全委員にどちらかの部会に所属していただいて、それぞれ研究・検討して、その結果を全員で共有して再検討したのち、定例会で決定する、というように理解していましたが。</p>
<p>(事務局) 伊藤係長</p>	<p>その通りです。しかし、実際それぞれの会議録を作って全員に配布するという作業をしましたが、その後再度全体で検討してということなら、最初から全委員にご案内して、検討した方がいいのでは、と考えました。先の合同部会は実質は図書部会だったわけですが、そうした意図で開催いたしました。</p>
	<p>他によい名称があれば、とも思うのですが、課題を継続して扱う場として部会を設けて、ご都合の付く委員は参加していただく。それがたまたま同時期に2つある、と考えていただきたい。ワーキンググループ、作業部会、といったイメージです。</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>それでは、部会についてお諮りします。事務局から提案のありました、①特定の問題を扱う会合として、部会を設ける。②委員を複数の部会に分けるのではなく、その都度全委員にお知らせする。③活発な活動を可能にするため、部会の運営に必要なことからは、部会で決定する。</p>
	<p>以上3点につきまして、賛成の委員は挙手願います。</p>
<p>委員</p>	<p>全委員挙手</p>
<p>(議長) 三富委員長</p>	<p>賛成多数と認めます。 これからは、部会で臨機応変に調査研究を進め、教育委員会に具申ができる、あるいは諮問に答えられる体制を整えて行く</p>

ということで、平成29年度の方向性が定まりました。事務局は、引き続き先導をお願いします。

次に、その他ですが委員の皆様何かございますか。事務局何かありますか。

(事務局)
伊藤係長

「富津市子ども読書活動推進計画（素案）」について説明
ブックスタート同様、図書館がないからという理由で見送られてきた子どもの読書活動推進計画ですが、やはり県内で未策定の市が今年度で一桁になる模様で、これも子育て日本一を目指す本市としては当然必要な計画であるという位置づけで素案を作成いたしました。もともと平成21年度から司書が準備を進めていた経緯もございますが、新たに担当が県内のすべての計画に目を通して、本市の現状にあった内容で作成したものです。平成30年度の策定を目指しておりますが、学校との連携についてなどまだまだ検討が必要な段階ですので、持ち帰って目を通していただいて、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

(議長)
三富委員長

他にないようですので、以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。委員の皆様のご協力に感謝いたします。

(事務局)
山口課長

以上をもちまして、平成28年度第2回富津市社会教育委員会会議を閉会といたします。お疲れ様でした。